
涙と雨。

クロロ軍曹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涙と雨。

【コード】

N6951D

【作者名】

クロコ軍曹

【あらすじ】

梅雨の時期になると思い出すあの日の想いと涙と雨を

(前書き)

初投稿作品です

外では冷たい雨が降っている

暇つぶしでよく通う喫茶店でコーヒーを口にしながら、僕はザーザ
ー降りの雨を眺めていた

この時期になるといつもあの日のことを思い出す

涙と雨。

ちょうど高二になって二ヶ月ほど過ぎたある日

その日は梅雨だというのに雲一つない快晴だった

僕はいつものように学校へ行き いつものように授業を受け いつものように一日の終わりを告げるベルがなった
ベルが校舎中に響いた瞬間、皆一斉に教室を飛び出す 部活動に励む者 友達と遊びに行く者 家に帰る者
これもいつも通り

僕は何故そうするのは分からないがいつも教室に誰もいなくなつてから教室を出る

そして今日も皆出ていって帰ろうとしたとき、教室には僕以外にま

だ一人残っていることに気付いた

彼女は窓際のすみっこの席で座っていた

その後ろ姿には見覚えがある

当然だ 僕の好きな人だから

彼女はものすごく綺麗な顔していて彼女を見るたび僕は見惚れてしま
う

少し開いた窓から入ってくる風が彼女の綺麗な髪をなびく
彼女はうっとうしそうに細くて綺麗な指で髪をかきわけ
るその姿にも僕は美しいと思ってしまう

心臓が激しく動くのがわかる

これが恋というやつなのだろう

出来れば彼女に話しかけてみたい 触れてみたい 所有したい
だが、それは許される事ではない

ガラガラッ 「美希 行こうぜ」

ほら来た

「うん」

そう言っただけで彼女は彼に連れられ教室を後にした

廊下からまだ楽しそうな二人の話し声が聞こえる

分かってる 僕には出る幕がないことくらい

二人はとてもお似合いだし

彼女を所有できるほど僕は出来た男でもない

そう思うとなんだか苦しくなってきた教室を駆け出した

気がつくと屋上にいた

さっきまで晴れわたっていた空が薄暗い雲に覆われていた

彼女はこの空の下で生きている

笑って 泣いて 怒って 誰かを愛し そして誰かに抱かれている
のだろう

そう思うと同時にとてつもない感情がおし寄せてきた

苦しみ 悲しみ 虚しさ 惨めさ 孤独 失望 絶望

ポツッ ポツッ

突然、雨が降り出した 雨と同時に今まで我慢していた涙が溢れ出
した

6月の冷たい雨は僕の心に深く染みた

コーヒーを飲みおえたころ雨はあがった

「そろそろ行くか」

6月になるたびに思い出す

あの涙と雨を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6951d/>

涙と雨。

2011年1月27日04時03分発行